

# 政策分析シート（平成22年度）

政策名		利便性の高い都市基盤の整備			政策No	12		部名	都市整備部		部長名	倉門 彰	内線	2800
関連部名		土木部												
行政評価事業体系		分野	安全安心都市[    ]											
目的		道路、公園等の都市施設の整備、駅前再開発の推進、防災街づくりの推進、公共交通網の整備等により、防災安全性が高く、良好な住環境の市街地に改善する。												
指標	政策の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明						
			19年度	20年度	21年度	22年度	目標値 (28年度)							
		魅力ある都市景観づくり進捗率（景観計画・景観条例）	-	30%	50%	90%	100%	事例調査：10%、調査方針決定：20%、現状分析：30%、骨格案作成：50%、素案作成：70%、パブリックコメント：80%、条例制定：90%、策定完了：100%						
		都市計画道路の整備率（％）	53.7%	53.7%	53.7%	58.1%	70.0%	完成延長:5,160m / 計画延長:8,886m (平成23年3月末時点) 23区平均:58.5%(18年3月末時点)						
		新バリアフリー基本構想策定の進捗率	-	-	60%	70%	100%	区全体基本構想策定：60%、重点整備地区別計画策定：1地区につき10%増						
		市街地再開発事業の進捗率（全地区）	66.5%	72.8%	75.8%	79.5%	98.0%	事業段階及び工事の出来高（全地区の平均）						
現状と課題（指標分析）		都市計画道路整備率は、23区全体の58.5%に対し、荒川区は53.7%と整備が遅れている。 日暮里地区など震災復興や戦災復興区画整理事業で街区が整った街並みも存在するが、区の6割強は狭隘な道路に木造住宅が密集した市街地となっており、防災安全性が危惧される。 防災安全性の高い街づくりや駅前に相応しい開発等、地区特性に合わせた適切な開発を誘導する必要がある。 17年4月のコミバスさくら、8月のつくばエクスプレス、19年度末の日暮里・舎人ライナー、20年10月のコミバス汐入さくら、22年7月の成田スカイアクセスの開業など、区内の公共交通網は充実し、利便性の高い街となっている。 少子高齢化の進行等に対応して、これまで以上に街のバリアフリーとユニバーサルデザインを進めていく必要がある。 街づくりにおける景観への配慮など、街の質を高め、住んでいて良かったと感じられる美しい地域づくりが求められている。												
今後の方向性		《今までの成果及び指標分析を踏まえて》  街の骨格となる都市計画道路の整備や生活道路の拡幅を計画的に進めるなど、都市の基盤づくりを確実に進めていく。 再開発による拠点整備を進め、多様な都市機能が集積した、にぎわいのある市街地を形成していくとともに、災害に強い街づくりを進めていく。 新バリアフリー法に基づく新たなバリアフリー基本構想を策定し、人にやさしい街づくりを進めていく。 都電沿線や隅田川沿岸など、景観に配慮した街並みを誘導し、美しい街づくりを進めていく。												

政策を構成する施策の分類			
施策名	政策推進のための分類		分類についての説明・意見等
	前年度 設定	今年度 設定	
総合的な市街地整備の推進[12-01]	重点的に推進	重点的に推進	秩序ある街づくりを進めていくためには、将来像を見据えた区の都市計画マスタープランに基づく、総合的な市街地整備が必要である。
都市計画道路の整備[12-02]	重点的に推進	重点的に推進	都市計画道路の整備率を23区の水準まで引き上げる。
総合的な交通体系の整備[12-03]	推進	重点的に推進	交通網の整備を進めるとともにバリアフリー化を図る必要がある。
市街地再開発事業等の推進[12-04]	重点的に推進	推進	それぞれの駅前の特性を生かし、商業、業務、駅前住宅等を集積させ、地域の安全と活性化を図る。